

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数／302名（2019.12.12 現在）

編 集 発 行／「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL：090-2604-7918 FAX：019-653-6447

郵便振替口座／02250-1-60580 E-mail／hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage（岩手ホスピスの会通信）／http://hospice.sakura.ne.jp/

No.64
2020年1月

東北緩和医療研究会参加

10月19日岩手県北上市さくらホールで、第1回日本緩和医療学会東北支部学術大会・第23回東北緩和医療研究会が開催され特別企画「交流カフェ」に参加しました。

岩手県内から当会を含む患者家族会5団体が参加し、それぞれの会の活動について紹介しました。

この日参加された岩手県保健福祉部医療政策室の藤原隆博特命課長（がん対策）に、当会、かたくりの会、びわの会の3団体で、「県内の患者会連絡会の窓口を医療政策室にお願いしたい。」と要望しました。

また、この日は会場で、「病院で死ぬこと」を書かれたケアタウン小平クリニック院長・山崎章郎先生が「人生の最終章をどう迎えたいですか？」と題して特別講演されました。

先生は最新の著書で「2025年には病院のベッド不足が深刻化する」と述べています。その時（5年後）を間近に控え、今後緩和ケア病棟（ホスピス）にも多くの患者さんが殺到して利用が困難になるのではないのでしょうか。患者さんの痛みを和らげる緩和ケアもおそろかになってしまうのではないのでしょうか。

講演を終えた後の山崎章郎先生にロビーでお会いしたので、疑問、心配を聞いてみました。

先生は「そこなんです。これからは医療のコンパクト化が必要です。これからが勝負です。」と返答されました。医療のコンパクト化とはどのようなことなのか、更に詳しくお聞きしたいと思います。

（2019年10月19日）



「交流カフェ」に参加



山崎章郎先生

書籍紹介

「在宅ホスピスという仕組み」

（新潮選書）山崎章郎（著）

単行本：253ページ

出版社：新潮社

発売日：2018年3月23日

定 価：1,430円（税込）

内容（「BOOK」データベースより）

最期は自分の家で、自分らしく逝きたい！団塊の世代が75歳を超える2025年には、年間100万人の介護者と150万人の病死者が日常となる。病院のベッドは不足し、「死に場所難民時代」がやって来る。自宅で最期を迎えることが当たり前になる時、本人と家族は前もって何を知っておくべきか。ホスピスケアの第一人者である医師による、慣れ親しんだ場所で尊厳ある死を迎えるための教科書。



岩手ホスピスの会総会記念講演会「地域医療を考える」

テーマ「在宅、在宅って言うども、ほんとにできるんだべが？」

講演①：「地域の高齢化少子化、医療、介護の未来をデータにより予測する」

盛岡市社会福祉協議会地域福祉課：佐々木裕美さん 13:00~13:20 (予定)

講演②：「在宅医療の実際と、今後の医療介護需要の増大を見据えた在宅医療体制整備の現状」

もりおか往診ホームケアクリニック院長：木村幸博先生 13:30~14:30 (予定)

質疑応答 14:30~15:00 (予定)

人類史上例を見ないとまで言われる急速な少子高齢化に伴い、日本、そして岩手でも今後医療介護需要の増大が懸念されております。地域の未来に関する具体的な予測データを説明していただきます。また、すでに岩手県では病院のベッド数不足に対応するため、2016年より在宅医療等の体制整備に取り組んでおります。

取り組みの進捗状況を教えていただき、少子高齢社会を生きるために、医療は、そして私たち住民自身は地域でこれからどのような取り組みが必要なのか一緒に考えましょう。

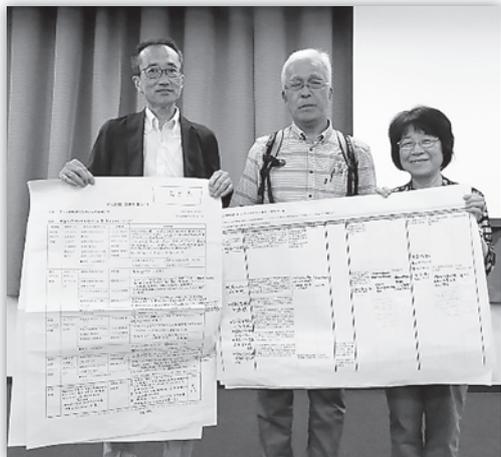


2020年2月15日(土) 13:00~15:00

場 所：盛岡市総合福祉センター 1F 入場無料

お問合せ：岩手ホスピスの会 (TEL: 090-2604-7918)

第17回 がん政策サミット 2019 参加レポート



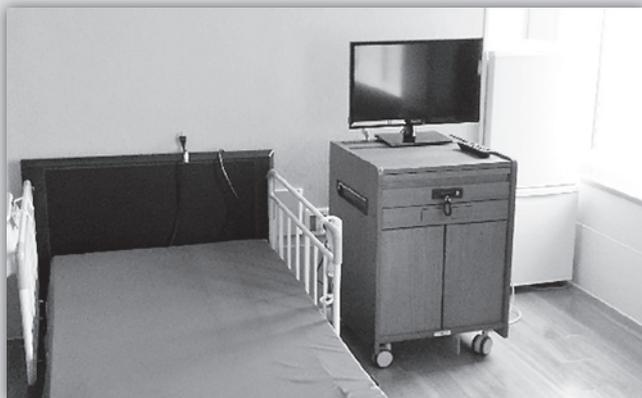
全国各県のがん対策推進協議会より患者委員が一堂に会し、各県のがん対策が適切に進められることを目標に学び合う「がん政策サミット 2019」が東京都内で3日間開催され、当会も岩手県がん対策推進協議会の患者委員として参加しました。このサミットは、医療政策機構が主体となり2009年から年2回開催されており、今回は全国から48人の患者関係者、全国の行政担当者22人、県議会議員10人、各県の医療提供者7人等々総勢87人が参加しました。東北6県からの参加者は岩手・患者関係者3名(当会より2名、盛岡かたくりの会より1名)、青森・秋田・山形・宮城は参加者ゼロ、福島・患者会関係者1名の合計4名が参加しました。

2日目の都道府県別グループワークでは当会2名と盛岡かたくりの会の及川正彦さん(写真中央)が同じ班になり、岩手県の緩和ケアについて共に考え、がん計画の実行評価と効果評価を行い、大変有意義な時間を共有することができました。

(2019年8月2~4日)

岩手医科大学附属病院緩和ケア病棟

- 住所／岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目 1-1
- 電話／019-613-7111 (代表)
緩和ケアセンター内線 3223
- 病床数／25 床 (全室個室)
- ベッド／無料個室 17 室 有料個室 8 室
- 特床 A (2 室) 料金／1 日 23,000 円
特床 B (2 室) 料金／1 日 20,000 円
特床 B (4 室) 料金／1 日 17,000 円
- 看護師数／28 名 + 看護補助者 1 名
- ホスピス医／木村祐輔先生 鴻巣正史先生
- 看護師長／高島みゆきさん
- 入院審査を受けるには／緩和ケアセンターに相談。
TEL: 019-613-7111 (内) 3223
月～金曜 8:30～17:00



- 審査日／週 2 回を予定
- ホスピス入院平均待機者数／実績がないため不明
- ホスピス入院平均待機期間／実績がないため不明
- 利用者内訳／盛岡市周辺の方々
- 緩和ケア外来／診察日：月～金 要予約
担当医：木村祐輔先生
鴻巣正史先生
- ホスピスボランティアの人数と活動／実績なし
- 遺族会の名称と連絡先／設置未定
- 入院料／定額制。入院期間により3段階。保険適用
他に食事代、病衣代など別途徴収。
- ペットの同伴／面会のみ可能。(条件あり) 要申請。
- 麻酔医との連携／あり

岩手医科大学附属病院緩和ケア病棟見学会

～新岩手医科大学附属病院に岩手県で7番目の「緩和ケア病棟(25床)新設」の見学～

新岩手医科大学附属病院(がん診療連携拠点病院)の最上階(10階)に、待ちに待った「緩和ケア病棟」が新設され、県内の患者会の皆様と共に当会からは11人の大人数で見学をして来ました。

最上階からは岩手の大自然が見渡され、広い食堂・談話室、キッチン・介護浴室、木目調の床は落ち着いて我が家のようなでした。家族の付き添い・夜間の面会・ペットの面会などは可能です。安定している場合は外出・外泊・退院し自宅で過ごすことも出来ます。また入院期間については、カンファレンスをしながら検討をしていくそうです。

看護師長さんは「無料個室が17室と多いのは嬉しいです。患者さんやご家族に寄り添いたいです。」と話されたのが印象的でした。なお、がん患者・家族サロンは2階にあります。県内初の医科大学附属病院でがん診療連携拠点病院としての緩和ケア病棟が、私たちがん患者・家族にとって大きな寄り処になるように願っています。



鴻巣先生(後列右から3人目)、高島看護師長(後列左から2人目)と共に

(2019年9月28日 佐々木順子)

被災地支援草刈ボランティアレポート

東日本大震災被災地支援活動として、岩手県自治体現業組合と合同で、草刈の希望が出ていた陸前高田市竹駒町の相川仮設住宅（28 世帯）、滝の里仮設団地（86 世帯）一各仮設住宅敷地内周辺において生い茂った雑草の草刈りボランティアを行いました。

昨年も開催し、仮設住宅の方から大変助かったとお礼の言葉を頂きましたが、今年も皆で取り組みました。

当会では盛岡から会員 3 名の他、胆沢地区から会員 1 名が参加して滝の里仮設団地周辺の草刈りに汗を流しました。岩手県自治体現業組合からは盛岡、一関、平泉、陸前高田、秋田などより 13 名が参加しました。



滝の里仮設団地で草刈り



県内外より 17 名で参加

仮設住宅の区長さん方からは「仮設に残っている住民の高齢化が顕著で、何人か入居している外国人や建設労働者等とのコミュニケーションも難しく草刈りの人手が足りず大変助かった」との声が寄せられました。この活動は毎年エフコープ虹の会様（福岡県）の支援をいただきながら開催しております。虹の会様のかわらぬご支援に深く感謝致します。（2019 年 6 月 22 日）

今年もエフコープ虹の会様より寄付金をいただきました。ありがとうございました。（2019 年 10 月 1 日）

ACP 県民会議参加

岩手県では、人生の最終段階に望む医療やケアを事前に家族や医療者らと話し合う「アドバンス・ケア・プランニング」（略称 ACP）の普及を目指して「ACP 県民会議」を設立し、当会も患者会代表として参加しました。

今後 ACP の普及に向け、検討していく予定です。

（2019 年 8 月 7 日）



ACP 県民会議

緩和ケア医師研修で講演

①「2019 年度岩手医科大学緩和ケア研修会」は同大で開催され、同大学附属病院の認定看護師、大学院生、臨床研修医ら約 30 名が、基本的な緩和ケアの習得や臨床現場で困ったときの対処の仕方等を学びました。当会からは 2 名が参加して、「岩手における患者さんの声」として、夫を看取った体験、がんの痛みを苦しんだ友人の体験を患者家族の立場から医療者に語りました。（2019 年 6 月 8 日）

②「胆江地区緩和ケア医師研修会」は同院で開催され（10 月 5 日）、臨床研修医 5 名、看護師 6 名、薬剤師 1 名がより良い緩和ケアのためのスキルアップについて学びました。

③「盛南地区緩和ケア医師研修会」は盛岡赤十字病院で開催され（11 月 9 日）、同院の臨床研修医、看護師、薬剤師の方たちが参加。どちらの会にも当会から講師として 2 名参加し、患者の立場から“少しでも患者の心に寄り添いがんの痛みをとって欲しい”と訴えました。



盛南地区緩和ケア医師研修会

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2019年5月～12月)



当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで97,800個に上っています。今日もどこかでタオル帽子の活動に感謝して下さっている方がいます。帽子を作るボランティアの皆さんに深くお礼申し上げます。

*先日、抗がん剤治療を受けている広島市民病院でタオル帽子をいただきました。他にもいくつか医療用帽子を使用していますが、一番軽く、涼しく、何よりどなたかが心をこめて作ってくださったものとして、大切に使用させていただいております。本当にありがとうございました。(広島市)



*タオル帽子を頂きありがとうございます。一針一針とても丁寧に縫われ、あたたかな気持ちになりました。少しでもお力になればと家にあったバスタオルやタオルを送らせていただきます。皆様のお心に感謝申し上げます。(京都市)

*昨年10月に急性リンパ性白血病が発覚し、以来抗がん剤治療を受けています。院内でタオル帽子を配布しているという話を他の患者さんから聞き、この帽子を受け取りました。今の暑い季節には風通しの良いゆったりとしたこの帽子が最適で、自分で買ったものよりずっと愛用しております。これからもがん患者の希望となるべく活動なさってください。(東京都)



フェイスタオルご寄付のお願い

皆様にお願ひです。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルがとても不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひお送りください。

〈送付先〉 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31 岩手ホスピスの会宛

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。申し込み方法：はがきかメールで。

※メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：〒031-0823 青森県八戸市湊高台6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会・サロン日程

2月8日：タオル帽子講習会・サロン 3月14日：タオル帽子講習会・サロン
4月11日：タオル帽子講習会・サロン

●場所：盛岡市総合福祉センター ●開催時間：午後1時30分から
●お問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願ひます。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

今年も内野株式会社様からタオル帽子やタオルを多数お送りいただきました。11年前より変わらぬご支援に深く感謝申し上げます。(2019年12月21日)



内野株式会社・ワイファルト内野さん(左)と共に

岩手県内各ホスピス現況

(岩手ホスピスの会調べ)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	盛岡友愛病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	盛岡市永井 12-10
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338	019-638-2222 (代表) 医療相談室 緩和ケア担当 内線 185
病 床 数	10 床	22 床 (全室個室)	18 床
ベ ッ ド	無料個室 8 床 有料個室 2 床	無料 12 室 有料 10 室	個室 10 床のうち 9 床が有料 4 床室無料
ベ ッ ド 料	1 日 3,300 円	1 日 5,400 円・10,800 円	1 日 5,400 円
看 護 師 数	16 名 + 看護補助者 1 名	21 名 + 看護補助者 2 名	17 名 + 看護補助者 4 名
ホスピス医	米山幸宏先生	畠山元先生、青木毅一先生、 旭博史先生	藤井祐次先生
看 護 師 長	端坂吉恵さん	木下香代子さん	上山志鈴江さん
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室にご相談ください。 月～水・金・土曜 9:00～17:00 木曜 9:00～12:30	緩和ケア相談室へお問い合わせ ください。 月～金曜 9:00～16:00	医療相談室まで。 019-638-2222 (代表) 月～金曜 9:00～17:00 土曜 9:00～12:30 (第 2・4 土曜は不可)
審 査 日	随時	随時	週 2 回を予定
ホスピス入院 平均待機者数	0～3 名	0	4～5 名
ホスピス入院 平均待機期間	状況により数日～2 週間 重症者優先	外来受診後、平均 5 日	個室は 2～3 週間程度 大部屋 希望の場合は 2～数週間程度 (大 部屋は希望が多いため、患者さん の意向を確認後、一般病棟で待 機する場合があります)
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとんど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほとんど	盛岡市周辺の方がほとんど
緩和ケア外来	診察日：月～水・金 8:30～16:30 木・土 8:30～11:30 担当医：米山幸宏先生	診察日：火・水・木 14:30～16:00 要予約 担当医：畠山元先生、青木毅一 先生、旭博史先生	開設未定
ホスピスボ ランティアの 人 数 と 活 動	登録者 7 名 ホスピスボランティア募集中 019-656-2888	病院ボランティア登録者 25 名。 うち 23 名がホスピスで活動中。	年 1 回程度イベント時活動
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称：ひだまりの会 年 2 回開催 連絡先：緩和ケア病棟 端坂	ハナミズキの会 緩和ケア病棟 年 1 回開催	設置未定
入 院 料	定額制 (3 段階…診療報酬上の緩和ケア 病棟入院料に準じます) 保険適用	定額制です。 入院日期間によって 3 段階での 算定です。	定額制。入院期間により 3 段階。 患者さんの自己負担額は加入して いる保険等により異なる。 各種医療保険適用、医療費の他 に食事代別途徴収。
ペットの同伴	面会可能。宿泊不可。要相談。	面会は可能。宿泊や飼育は不可	面会のみ可能。条件あり。 要申請。
麻 酔 医 と の 連 携	必要時可能	硬膜外ブロックなどを行う場合な どに連携あり。	なし

(2019年11月現在)

詳細は各病院に直接お問合せ下さい)

	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
住 所	一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢羽田町字水無沢 495-2
電 話	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
病 床 数	24 床 (個室 20、2 床室 2)	24 床 (個室 18、2 床室 3)	20 床 (全室個室)
ベ ッ ド	無料 17 床 有料 7 床	有料個室 10 床、無料室 14 床	無料 20 室
ベ ッ ド 料	1 日 3,130 ~ 6,370 円	1 日 3,300 ~ 13,420 円	無料
看 護 師 数	18 名 + 看護補助者 1 名	17 名 + 補助 3 名	17 名 + ケースワーカー 1 名 + 看護補助者 5 名
ホスピス医	平野拓司先生	星野彰先生、桐生幸歩先生、 綿引奈苗先生	及川司先生
看 護 師 長	佐藤絹子さん	平澤ちよみさん	小林洋子さん
入 院 審 査 を 受 け る に は	0191-23-3452 (入院相談等) がん相談支援センター 相談時間：平日 8:30 ~ 17:15	0197-71-1511 (入院相談他) がん相談支援室 相談時間：平日 9:00 ~ 16:00	入院相談 (担当：ケースワーカー) 後面談 入院院検討会 (医師、薬剤師、栄 養士、看護師、理学療法士で構成)
審 査 日	随時	随時	随時 (その後ベッドが空くまで待機)
ホスピス入院 平均待機者数	0	3 ~ 4 名	0
ホスピス入院 平均待機期間	数日 (緊急対応可)	待機期間は同院一般病棟や近隣 の病院、連携のとれている訪問診 療で対応	0
利 用 者 内 訳	一関市周辺や宮城県北の方がほと んど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。 その他は奥州、盛岡等	奥州市周辺の方がほとんど
緩和ケア外来	診察日：月～金、要予約 担当医：平野拓司先生	診察日：月～金の午前、要予約 担当医：星野彰先生	診察日：水、要予約 担当医：及川司先生
ホスピスボ ランティアの 人 数 と 活 動	ボランティアコーディネーター 1 名、 ボランティア 12 名 活動：ティータイム、季節の行事、 がん患者サロン (こころば)	登録者 67 名。 活動内容：お茶会・歌っこの会・ アロマ・生け花・季節のイベント 企画	現在登録者 5 名で活動中。 ホスピスボランティアを 随時募集中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	偲ぶ会 (連絡先：緩和ケア病棟) 当院緩和ケア病棟でお亡くなりにな った方のご遺族の方のみ 年 1 回開催	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟でお亡くなりにな った方のご遺族の方のみ 年 1 回開催	<small>しちせき</small> 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟でお亡くなりにな った方のご遺族の方のみ これまでに 4 回開催
入 院 料	定額制 (入院期間により 3 段階) ただし、定額に含まれない加算や 有料個室の料金等は別途追加にな ります。	定額制 (入院期間により 3 段階) ただし、定額に含まれない加算や 有料個室の料金等は別途追加にな ります。	定額制 (マルメ)。 3 段階になります。
ペットの同伴	一時的な面会のみ可能	面会可能。宿泊不可	面会可能。宿泊不可
麻 酔 医 と の 連 携	なし	院内ペインクリニックと連携	麻酔医が非常勤なので頻度は少な い。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2019年5月～12月

5月11日	第5回役員会、タオル帽子サロン・講習会、通信発送作業 (盛岡市総合福祉センター 30名)
5月12、18、26日	タオル帽子倉庫作業 (盛岡市タオル帽子倉庫 のべ15名)
6月8日	第6回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 31名) 岩手医科大学附属病院緩和ケア医師研修において「岩手県における患者さんの声」と題して講演 (岩手医科大学循環器医療センター 3名)
6月12日	第25回岩手県がん対策推進協議会参加 (盛岡市岩手県民会館 4名) (11ページに新聞記事あり)
6月15日	医療者と患者会による緩和ケアに関する合同会議参加 (盛岡市勤労福祉会館 4名)
6月22日	被災地支援草刈りボランティア (陸前高田市滝の里仮設団地 4名)
7月13日	第7回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 28名)
7月14日	タオル帽子チャリティーバザー開催 (滝沢市土日ジャンボ市 4名)
7月20日	緩和ケアセミナー開催 (盛岡市総合福祉センター 40名) (11ページに新聞記事あり)
8月2～4日	第17回がん政策サミット参加 (アットビジネスセンター東京八重洲通り 2名)
8月7日	第1回 ACP 県民会議参加 (岩手県医師会館 1名)
8月10日	第8回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 27名)
8月11～12日	タオル帽子チャリティーバザー開催 (滝沢市土日ジャンボ市 8名)
8月15日	相模原協同病院化学療法室タオル帽子配布コーナー訪問 (神奈川県相模原市 3名)
9月14日	第9回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 29名)
9月15日	タオル帽子チャリティーバザー (滝沢市土日ジャンボ市 6名)
9月18日	盛岡二高生徒50人にタオル帽子作成講習会開催 (盛岡第二高等学校 10名) (12ページに新聞記事あり)
9月21日	がん患者さんのための栄養講座開催 (盛岡市総合福祉センター 25名)
9月23日	タオル帽子倉庫作業 (タオル帽子倉庫 5名)
9月28日	岩手医大緩和ケア病棟見学会参加 (岩手医大 11名)
10月5日	岩手県立胆沢病院緩和ケア医師研修に患者からの声として参加 (同院 1名)
10月12日	第10回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 29名)
10月15日	岩手県立胆沢病院タオル帽子講習会 (胆沢病院 4名)
10月19日	日本緩和医療学会東北支部学術大会参加 (北上市さくらホール 4名)
11月3日	タオル帽子倉庫作業 (盛岡市タオル帽子倉庫 7名)
11月9日	盛岡赤十字病院緩和ケア医師研修で患者の立場から講演 (同院 2名)
11月10日	第11回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 30名) 岩手県紫波町図書館で活動紹介 (紫波町図書館 1名)
11月14日	盛岡友愛病院緩和ケア病棟でホスピスボランティア (同院緩和ケア病棟 9名)
11月16～17日	タオル帽子チャリティーバザー開催 (滝沢市土日ジャンボ市 4名)
12月2日	東京海上日動あんしん生命様より当会へのタオル帽子寄贈式 (盛岡市総合福祉センター 19名) (12ページに新聞記事あり)
12月14日	第12回役員会、タオル帽子サロン・講習会 (盛岡市総合福祉センター 25名)
12月17日	盛岡第二高等学校生徒から盛岡友愛病院へのタオル帽子寄贈式参加 (友愛病院 3名) (12ページに新聞記事あり)



9月18日 盛岡二高 タオル帽子講習会

がん患者さんのための栄養講座開催

盛岡市総合福祉センターで「がん患者さんのための栄養講座」を県立胆沢病院栄養サポートチーム専従管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士の蛇口真理子さんを講師に開催しました。今回のテーマは「がん治療中の食事のポイント」。

栄養に関することは患者さんにとって切実な問題で、闘病中のがん患者さんも来られ、熱心に蛇口さんの話に聞き入っていました。今回は参加者の方々に当会スタッフが声掛けして、それぞれの悩みや今日の講座で学びたいことを聞き取りサポートに努めました。

(2019年9月21日)



盛岡友愛病院ホスピスボランティア

盛岡友愛病院緩和ケア病棟ティーラウンジで岩手ホスピスの会ボランティアグループ11名が出前コーラスとして、童謡や唱歌、歌謡曲など懐かしい曲を披露しました。

コーラスを聞きに集まった同病棟の患者さんたちは、歌声に合わせて一曲一曲懐かしそうに一緒に口ずさんでいました。

(2019年11月14日)



「岩手ホスピスの会」がん相談窓口



開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分~4時(月により変更あり) 相談無料
場所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子サロン会場(月により変更あり)
内容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場においていただき対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

継続とご支援のお願い

皆さまからのあたたかなご寄付・ご支援をいつも本当にありがとうございます。

昨年度の総会で「年会費の改定に伴う会則の改正」について提案があり、これまでの、一口1,000円から一口2,000円に改定することでご承認をいただき2020年1月1日の実施となります。詳細は、2019年5月発行の「岩手ホスピスの会通信No.63」に掲載しております。

今後も経費削減に努め大きな事業においては助成金の資金支援を活用いたします。岩手ホスピスの会が、がん患者さんやご家族に寄り添い活動できる支えは、皆様のご支援によるものです。今後も安定した活動を継続するため、ご理解とご支援をお願いいたします。

☆手続き ゆうちょ銀行 郵便振替：口座記号番号 02250-1-60580 岩手ホスピスの会

☆年会費 一口2,000円(複数口可)

タオル帽子取扱い病院見学レポート

—JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院—

当会では毎年2回、6月と12月に全国のがん診療連携拠点病院年平均約80カ所にタオル帽子を送っておりますが、実際に各病院ではどのように患者さんに帽子を手渡していただいているのかぜひ見たいと思い、相模原協同病院を訪問しました。同院にはこれまで数百個のタオル帽子をお送りしています。当日は、同院患者総合支援・がん相談支援センター医療相談室長がん看護専門看護師の波多江優さん（写真左）が対応してくださいました。波多江さんはじめ多くのスタッフの協力でタオル帽子が患者さんに届けられている様子を知ることができました。

(2019年8月15日)



相模原協同病院訪問

タオル帽子クリスマスプレゼント

今年も全国のがん診療連携拠点病院436カ所のうち、ご依頼のあった37カ所の病院にタオル帽子総数3,000個を発送しました。全国の患者さんが、お送りしたタオル帽子で少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア同願っております。この日は東京海上日動あんしん生命様から当会へタオル帽子、タオル、寄付金が寄贈されました。11年前よりご支援いただいているあんしん生命様に深く感謝致します。

タオル帽子クリスマスプレゼントを受け取って頂いた病院一覧

—2019年12月(1件50個程度)病院 37件 総数3,000個—

- 北海道** 小樽市民病院 **青森県** 青森県立中央病院
- 岩手県** 岩手県立中部病院、岩手県立胆沢病院、岩手医科大学附属病院、盛岡友愛病院
- 秋田県** 大曲厚生医療センター **山形県** 山形県立中央病院 **茨城県** 東京医科大学茨城医療センター
- 群馬県** 公立藤岡病院 **千葉県** 船橋市立医療センター、日本医科大学千葉北総合病院
- 神奈川県** 横浜市立みなと赤十字病院 **愛知県** 愛知県立中央病院、半田病院
- 岐阜県** 岐阜大学医学部附属病院 **石川県** 金沢医科大学病院 **京都府** 京都大学医学部附属病院
- 大阪府** 大阪赤十字病院 **兵庫県** 関西労災病院、兵庫県立丹波医療センター
- 広島県** 広島市民病院、広島大学病院、福山市民病院 **山口県** 山口県立総合医療センター、下関総合病院
- 高知県** 高知大学医学部附属病院 **福岡県** 九州医療センター
- 大分県** 社会保険田川病院、大分大学医学部附属病院 **長崎県** 長崎みなとメディカルセンター
- 佐賀県** 唐津赤十字病院 **熊本県** 熊本大学病院、熊本赤十字病院、熊本労災病院、熊本第一病院
- 鹿児島県** 鹿児島医療センター



東京海上日動あんしん生命様より当会へのタオル帽子寄贈式

検診率向上などに課題 痛み緩和も論議

がん協が推進 県対策

県がん対策推進協議会（会長・滝田研司県医師会副会長、委員20人）は12日、盛岡市の県民会館で開かれた。今年度の県のがん対策や医師確保の取り組み、がん患者に対する就労支援対策などについて情報共有し意見を交わした。

会には医療関係者やがん患者団体の代表ら17人が出席。全国最下位レベルのがん検診率の改善や医師・看護師不足への対応、緩和ケアへの取り組み強化などに対する意見が目立った。

北上市のがん患者会代表は「検診率の向上のためには職員の余裕のない中小の事業所への働き掛けや勤務時間外にも検診を受けられるような体制整備が必要」と提言。がんの経験者が患者を支えるピアサポートについても「全てのがん拠点病院に配置してほしい」と積極的な取り組みを求めた。

盛岡市のがん患者会藤原さん、県内出身の医学部進学者を増やすため、県立高校への医学コースの設置や修学資金援助の拡大など、思い切った施策が必要だと訴えた。

岩手ホスピスの会の川守田裕司代表は、がんの終末期などの痛みに対する対応が、いまだ十分でなく、苦痛の中で亡くなる患者が少なくない指摘。実態を明らかにするため、

会独自に患者や家族を対象にアンケートに取組んでいる他、「苦痛のスクリーニング」について7月にセミナーを開いて学びを深めることを報告した。

県看護協会の及川史智子会長は「岩手医大内に高度看護研修センターが開設され、緩和ケア認定看護師の養成に成果を上げているが、いまだ認定看護師が配置されていない中小規模の病院も多い。積極的に人材を送り出してほしい」と要望。

岩手医大の木村祐輔緩和医療学科学科特任教授は「認定看護師の数がまだ少ないため一人の負担が大きい。最初に資格取得した看護師は年齢も高くなつており、次世代を育てていく必要がある」と述べた。



がん対策の課題や方向性について活発に意見を交わした協議会

苦痛の軽減目指して

岩手ホスピス 村上雅彦科長(大病院)講演

岩手ホスピスの会 組みを紹介。約40人が（川守田裕司代表）主 耳を傾けた。

このほど、盛岡市若園町の市総合福祉センターで開かれた。大船渡病院緩和医療科長で、外科医師の村上雅彦さんが「苦痛の軽減を目的」と題して講演し、気仙地区での取り組みが求められていると

医療資源が十分でない中、医療者や福祉関係者が連携。市民講座やフォーラムを開催し、がんになつても自らが生き延びていく道があることを市民に繰り返し啓発している。

4月には、陸前高田市国民健康保険広田診療所に、がん患者や家族の相談に無料で応じる、がん看護ケアよろず相談窓口「ヒロピス」がオープン。診療所が町内に1カ所しかない住田町では訪問看護ステーション「すみちゃん」が発足し医療、介護の面で在宅療養を支える。

「互いの専門性を前提とした信頼と「コミュニケーション」、やる続ける、伝え続けることが大切」と村上さん。患者・家族の連携、医療・福祉・行政・教育・報道機関の連携、地域と全国の連携、多(他)職種との連携など限られた資源で最大限の効果を引き出す「連携力」の重要性を説いた。

現在の、県内のがん患者会や医療機関に依頼し、がん患者の痛みの実態や「アドバンス・ケア・プランニング」(療養場所や延命治療など)について、残された時間の有効な過ごし方や自分なりの方針を周囲と事前に話し合っておくこと」の認識などを問うアンケートを実施している。

川守田代表は「沿岸地域での熱心な取り組みに感心する。アンケートの結果も踏まえ、今後の活動に生かしていきたい」と語る。



苦痛の軽減を目指す気仙地区での取り組みを紹介する村上雅彦医師

盛岡タイムス 2019年6月15日掲載

盛岡タイムス 2019年7月21日掲載

支える思いタオル帽子に

盛岡 二高生 作製通じがんに理解

盛岡

がん患者とその家族を支える岩手ホスピスの会（川守田裕司代表）は18日、盛岡市上ノ橋町の盛岡二高（菅原尚志校長、生徒596人）でタオル帽子作製講習会を開き、生徒と患者支援への思いを深めた。

3回目の開催で、同家に庭クラブに所属する1、2年生50人が参加。ボランティアの指導を受けながら慎重にタオルを縫い進め、1時間ほどで完成させた。太田代華さん（1年）は「患者さんの力になれるのはうれしい。思ったより簡単にできたので自分でも作りたい」と思いを込めた。



ボランティアの指導を受けながらタオル帽子を縫う生徒たち

岩手日報
2019年
9月19日
掲載

タオル帽子は抗がん剤の副作用による脱毛に悩むがん患者のため同会が作製、配布している。タオル1枚で作れる手軽さやデザインの幅広さが評価され、これまで全国の病院などに約9万4千個を贈った。

今回作製した帽子も年内に市内の病院に寄贈する予定。川守田代表（62）は「若い世代にも参加してもらっていききたい」と願った。

「タオル帽子」全国の病院へ

がん患者や家族を支援するボランティア団体「岩手ホスピスの会」が、治療の影響で脱毛に悩む患者のために、タオルで作った帽子を手縫いで贈る活動を続けている。今年も今月上旬、全国の病院にクリスマスプレゼントとして、約4400個のタオル帽子を送る。

【山田豊】

岩手ホスピスの会

同会が帽子を贈る活動を開始したのは2008年。翌年から全国に発送を始め、今年で10年になる。きっかけは、会事務局長を務める吉島美樹子さん（58）の体験だった。



全国の病院に贈るタオル帽子を点検する吉島美樹子さん（左）ら。盛岡市の市総合福祉センターで

がん患者向け Xマスの贈り物

見たくなかった」と振り返る。

入院していた6カ月間、病室で同じような境遇の患者と支え合ったことが励みになった。退院後は「がん治療で脱毛に悩む人の助けになりたい」と考えたという。

治療で毛が抜けた人はウィッグを使うことも多いが、「カッラは安い物でも10万円以上する。経済的な負担が大きい」と話す。タオル帽子は材料のタオル代200〜300円でできる。気軽に好きな色や柄を試せるのが長所だ。病院や自宅など室内での利用を想定しているため、通気性の良さを追求した。

2日には、同会と共に活動に取り組んできた東京海上日動あんしん生命などの社員5人が参加する「タオル帽子寄贈式」があり、帽子約1400個が寄贈された。吉島さんは「継続して一緒に取り組んでくれることがうれし

い。これからも患者さんに届け続けたい」と笑顔を見せた。

同会では未使用のタオルの寄付を呼び掛けている。問い合わせは吉島さん（080・1658・1762）。

毎日新聞 2019年12月3日掲載

真心帽子 がん闘病支えに 盛岡友愛病院に盛岡二高生寄贈



タオル帽子を看護師に手渡す（左から）山本涼夏さん、川村優果さん、高橋遥さん

盛岡

盛岡市上ノ橋町の盛岡二高家庭クラブ（高橋遥委員長）は17日、同市永井の盛岡友愛病院（佐々木達哉院長）にがん患者用の手作りタオル帽子50個を贈った。

寄贈式は同院で行われ、約20人が出席。2年の高橋委員長と川村優果副委員長、1年の山本涼夏さんが帽子を看護師に手渡した。高橋さんは「早く自宅に帰ることができるよう、一針一針思いを込めて縫った」と紹介した。

帽子は、抗がん剤の副作用による脱毛に悩む患者が着用する。佐々木院長は「患者さんを気遣い作ってくれた帽子は心も包んでくれる」と感謝した。

9月中旬に岩手ホスピスの会の会員の指導を受けて作製した。寄贈は、2017年から始まり3年目。

盛岡市上ノ橋町の盛岡二高家庭クラブ（高橋遥委員長）は17日、同市永井の盛岡友愛病院（佐々木達哉院長）にがん患者用の手作りタオル帽子50個を贈った。

岩手日報
2019年
12月19日
掲載